２０２４年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	古文書学（NO.1）

問１　次の資料は、「木戸幸一日記」昭和 16 年 6 月 22 日の記述です。これから、昭和天皇、木戸幸一、近衛文麿、松岡洋右の考え方の相違を、なるべく踏み込んで述べなさい。

六月二十二日（日）曇時々晴

午前十時、徒歩にて深澤氏を訪ひ歯の治療を受く。

十一時、清水洋服店来り国民服の仮縫を為す。

二時、鈴木総裁より電話にて、独ソ開戦の報入りたる旨連絡あり。

四時過、松岡外相より電話にて、独ソ開戦の公電大島大使より入りたる趣にて拝謁を願出来る。よって当直の徳川侍従を経て御都合を伺ひたる結果、午後五時半に拝謁被仰付こと及なれり。よって昨夜近衛首相、平沼内相と懇談の際に得たる印象に基き、松岡外相拝謁前拝謁を願ひ、大要左の通り言上す。

独蘇開戦の場合、我国の執るべき態度方針については、一致せざる様に見て受け外相の意見は必ず今回の問題に対する我国の処置、国運の将来に重大なる影響を与ふるものなれば、之が対策につき見解を申上ぐべき事は極めて重大なれば首相と相談済なりや、今回の拝謁に当たりては種々の御心構ひを致すべし、仰せ載き度く、首相中心の御心構ひを致すべし、と願ひ度しと言上す。

拝謁後御召あり、六時四十分より同五十分迄、拝謁五時半、松岡外相参内、拝謁す。

松岡外相の対策は北方にも南方にも積極的に進出する結果となる次第にて、果たして政府、統帥部の意見一致すべきや否や、又、国力に省み果たして妥当なりや等につき頗る御憂慮被遊る。

依って、御前を退出後、近衛・平沼両相に電話す。

近衛公は留守なりし故、平沼内相に充分慎重の考慮を希望す。

星ヶ岡茶寮に於ける和田の里帰り宴に出席す。

帰宅後九時半、近衛公に電話し、外相拝謁の経緯を伝へ、連絡会議に於て善処方を希望す。

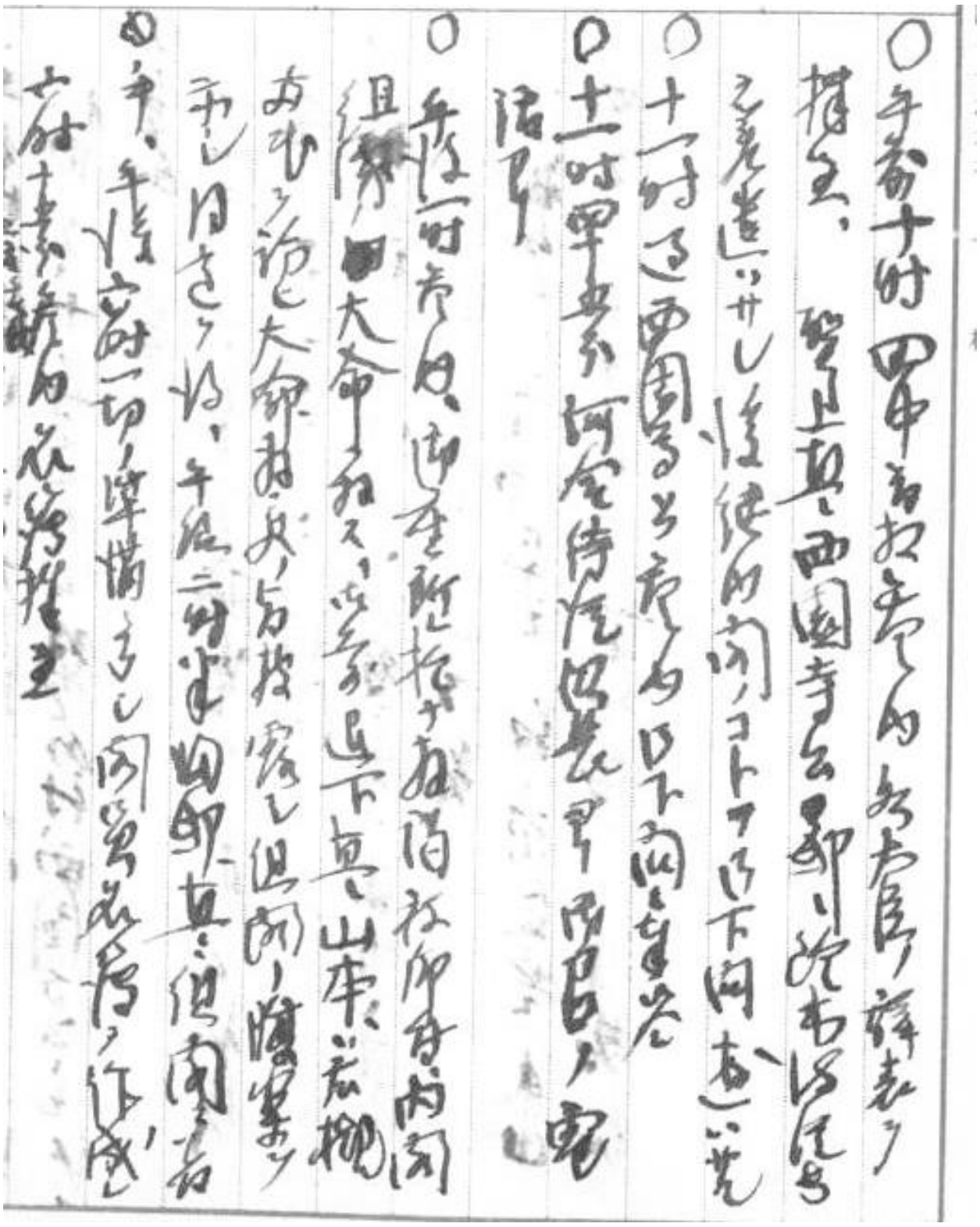
十二時半、近衛公より電話にて、只今迄松岡外相来り懇談したるが、本日拝謁の際言上したるは、将来の見透を申上たるものにして、直に実行する意味には非ずとのことなりき。

出典　『木戸幸一日記　下巻』（東京大学出版会,1966）

２０２４年度大学院博士後期課程入学試験問題

研 究 科 名	科　目　名
文学研究科 人文学専攻	古　文　書　学（NO.2）

問２　次の資料は、田中義一内閣が倒れ浜口雄幸内閣が成立した昭和４年７月２日の浜口雄幸日記です。
これを全文解読しなさい。



出典　「国立国会図書館デジタルコレクション」